

若者のまちづくり参加推進に関する決議（案）

国内における選挙の投票率は低迷を続けています。これまでから選挙の時期になると、国や地方自治体が投票への呼びかけのPRをしてきました。それにも関わらず、近年、投票率上昇の兆しは見えていません。

このような中、先月7月10日の参議院議員通常選挙から選挙権年齢が18歳に引き下げられました。選挙といえば、まだ少し先のことであると思っていたのが、高校生である私たちも年齢が到達すれば在学中にも投票できることとなりました。しかし、総務省によると、この参議院議員通常選挙の投票率は前回よりわずかに上昇したものの、54.7%と過去4番目に低い数字であったとのこと。また、地方選挙に目を向けてみると、昨年行われた亀岡市議会議員選挙での投票率も下降の一途をたどっていると聞きます。

今回の選挙権年齢引き下げは、年齢基準を世界各国と同程度にし、日本の将来を担う若い世代の意見を政治にもっと取り入れていくことを目的として実施されたとのこと。私たちはこのことを真摯に受け止める必要があります。また、低調に推移する投票率も踏まえ、私たち自身が我がまち、我が国の現在、そして将来にもっと目を向ける必要がある、そう強く感じているところです。

今回、高校生議会に参加するにあたり、亀岡市のまちづくりについて私たちなりに調査し考える機会を得ました。その中で、何気なく住むまちにもたくさんの課題があることに気づきました。一方で、市内には豊かな自然や文化、誇らしい歴史や伝統などが多数あることも再認識したところであり、亀岡を発展させるために多くの人たちが大変な努力をされてきたことにも思いを馳せることができました。

言うまでもなく、議員や首長は選挙により選ばれ、私たちの代表者として活動しています。このため、選挙権を持つ者としては、一度たりとも投票権をおろそかにせず、代表者を真剣に選ばなければなりません。このことは、本日の高校生議会に参加し、この議場で議会を体感することにより、よりいっそう尊く、大切なものであることを実感するに至りました。この経験を私たちは本日参加できなかった友人たちにも伝えていかなければなりません。

折しも今年は、女性が選挙権を得て戦後初の衆議院議員総選挙で投票を行ってから70年の節目の年です。今の生活からは想像もできないような当時の混沌とした状況の中、先人の努力により歴史が変えられてきたという事実があります。この並々ならぬ努力を念頭に置きながら、今日の高校生議会を良き機会とし、今を生きる私たちは、輝く未来を見据え、この国をそしてふるさと亀岡を自らの手で創造していく、そんな気概と責任感を持ち行動できるよう努めていきたいと思えます。

以上、決議します。

平成28年8月2日

亀岡市議会高校生議会